

◆現状と課題認識

- 地域における大学の使命は、地域における新たな価値の創造による新たな文化と雇用の創出である。そのためには、地域の大学は知の拠点としての機能を有し地域で活躍できる人材の育成が重要である。
- しかし、これまで大学の地域との連携は必ずしも十分とは言えず、地域の真のニーズに応えた教育や研究が大学でなされてきたとは言い難い。
- このために本学は、日本におけるデジタルアーカイブの拠点大学として、2013年よりデジタルアーカイブの「知的創造サイクル」を開発し、観光、教育、企業の方針での人材育成の試行研究を行ってきた。
- その研究成果として、地域の観光の振興並びに学校教育では有意な学力の向上が認められ、デジタルアーカイブの利活用が新たな価値を創造し、地域活性化や教育の推進に有効との感触を得ている。

◆計画の内容

①「地域資源のオープンデータ化」を実現するためのメタ情報の基礎的研究

- シソーラス、索引語（キーワード）の統一化・共通化が必要である。各デジタルアーカイブにおけるシソーラスを開発する。
- そのために、既に「地域資源デジタルアーカイブ」として、151,191件（2020.2現在）の静止画・資料・動画を収集整理し、メタデータを付記してデータベース化している。

②「地域資源デジタルアーカイブ」を活用した地域の課題の実践的な課題解決の方法の導出

- 「地域資源デジタルアーカイブ」は、単なる記録ではなくて、研究成果、「知」を集積することがデジタルアーカイブに問われている。本学独自の「知的創造サイクル」を構成し、「知識循環型データベース」を再構築する。
- そのために、地域の課題を抽出することから始め、大学の知識を集約して地域資源の「知識循環型デジタルアーカイブ」を再構築し、このデジタルアーカイブを有効的に活用し、地域の課題を実践的な課題解決の方法を導き出す。

③オープンデータ化された地域資源を有効的に活用し、新たな価値を創造するという「知的創造サイクル」の検証

- 「地域資源デジタルアーカイブ」による知の拠点形成は、学生自らが、その地域資源を有効的に活用し、新たな価値を創造するという「知的創造サイクル」を生かして、地域の様々な解の見えない課題に主体的に向き合い、地域課題を解決すると共に、地域に貢献する研究として、地方創成イノベーションの研究を行う。

デジタルアーキビスト
資格認定機構

本学が中心となり、佐々木正峰先生（元文化庁長官）をはじめ、多くの各界関係者の協力を得て全国規模のデジタルアーキビスト資格認定機構を設立し、すでに全国で約4,000名の有資格者が活躍している。

◆目的

- 本事業は、地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、**岐阜地域の知の拠点となる大学を目指す**ものである。
- 具体的には、地域における地方創成イノベーション計画に呼応し、以下に示す地域の代表的な伝統文化産業と観光資源について、デジタルアーカイブ研究とそれの利活用を行い、それぞれ**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘**を行う。
 - (1)飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブと伝統文化産業の振興
 - (2)郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと新たな観光資源の発掘
- 地域と大学が緊密に連携してデジタルアーカイブ研究を推進し、**デジタルアーカイブによる新たな価値を創造できる人材の養成**を行う。

デジタルアーカイブによる新たな価値創造推進事業

◆事業概要

知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという本学独自の「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、**地域に開かれた地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備**をする。

このことにより、地域課題に主体的に取り組む人材を養成する大学として、**伝統文化産業の振興と新たな観光資源の発掘並びにデジタルアーカイブによる新たな価値の創造**を行う。

岐阜女子大学地域連携推進委員会

デジタルアーカイブにより新たな価値を創造できる人材の養成

デジタルアーカイブ学会

○本学は2017年5月に国立国会図書館、東京大学、京都大学、愛知県立博物館等と発足した「デジタルアーカイブ学会」において東海地域への中心的なメンバー校となり、「デジタルアーカイブの開発研究」を地域に開かれた知の拠点としてのブランディング事業として主体的に取り組むを行う。

地域課題に主体的に取り組む人材

デジタルアーカイブ社会の実現

○アーカイブの共有と活用を推進した経験があれば、そこにある各種データを有効に用いることで、教育・防災目的での活用や、観光利用によるインバウンド効果、データに付加価値をつけたビジネス利用、地域課題を創出した地方創生、データ共有による研究活動の活性化など、様々な活用につながり、新たな経済的価値を創出し、イノベーションを推進するものにもなる。

知の拠点形成のための基盤整備

知の創造

○大学が地域資源のデジタルアーカイブ手法を新たに開発し、大学の教育・研究 情報とともに利用者へ提供すること、そして**利用者からフィードバックされた情報や課題をデジタルアーカイブに加え、関連資料と合わせて、さらなる情報提供**をする。

知のデジタルアーカイブ

知のデジタルアーカイブ

○地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備により、学生自らが、その地域資源を有効的に活用し、新たな知を創造するという「知的創造サイクル」を生かして、**地域の様々な解の見えない課題に主体的に向き合い、地域課題を解決すると共に、地域に貢献する大学として、地方創成イノベーションの実現と県内の地域の伝統産業の振興並びに観光資源の発掘を行う**大学を目指すことができる。

知的創造サイクル

デジタル情報資源のオープンデータ化

知の活用

○地域の課題を抽出することから始め、大学の知識を集約して地域資源デジタルアーカイブを構築し、このデジタルアーカイブを有効的に活用し、地域の課題を実践的な課題解決の方法を導き出す人材養成のための、**デジタルアーカイブの構築と、それを有効的に活用するための教材、教育方法を開発**する。

デジタルアーカイブ研究所

～地域の文化遺産を守り、知識基盤社会を作り上げる人材の養成～

○デジタルアーカイブの構築・連携を担う人材育成には、対象分野の理解、デジタルアーカイブ化の技術、関連法令と倫理の理解、デジタルアーカイブを開発するプロデュース力、コミュニケーション力。また、活用者の視点に立ち、ニーズ分析、資料の選定、メディアの選定、ナレッジマネジメントの促進、市民参加型データ収集等の能力が求められる。

○本学のデジタルアーカイブ専攻では、上記のような**各種能力を身に付け、デジタル・ネットワーク時代における知識基盤社会を支え、文化の保存・継承・発展を担う人材であるデジタルアーキビストを養成**する。

知の収集・保管

○デジタルアーカイブは、単なる記録ではなく、研究成果、「知」を集積することがデジタルアーカイブに問われている。大学が大学としてのイデンティティを確立するために、「知」の拠点としての**地域資源デジタルアーカイブを含めた統合的なデジタルアーカイブを構築**することが求められている。

